



花見山のふもとで花と自然の中の 保育実践

さくら保育園

花いっぱいにかこまれた渡利地域で保育をして



さくら保育園は1980年4月に定員60名で開園した認可保育園です。建設当時から、渡利地域は山と田畑、花に囲まれ、自然豊かな土地でした。

近接する花見山が全国的に有名になる以前から、散歩に出かけたり保護者と一緒に遠足に行くなど、その自然の中でのびのびと保育を行ってきました。

花見山に行く途中は花との出会いには事欠きません。自分たちしか知らない桜の木もあったりして子どもたちの散歩意欲を掻き立てます。

* 写真は旧園舎（1980～2010）



事業計画

①事業名 「自然と花にかかわる保育実践」

- (目的) 身近な自然と関わりながら、花や自然に興味・関心をもたせ、保育実践につなげるとともに、地域に活動を周知する。
- (内容) ・普段の生活や散歩の中で花や自然（木の実や虫・小動物）に触れ、身近にあることに気付かせる。花の性質を知り、興味・関心をもつ。
- ・園の花壇、プランターに一年間を通じて花を植え、育てる活動をもつ。
 - ・保護者に参加してもらい、取り組みを通じて保育園活動の理解につなげる。
 - ・父親の子育て参加を促す機会とする。
 - ・保育の中で花の絵や散歩での経験を描いたり、工作して表現活動を楽しむ。
 - ・様々な行事・取り組みを通じて【花見山のふもとの保育園】をアピールする。



花と自然に囲まれながら

10年前に移転する前の園庭には、大きな桜の木がありました。それに倣って新園舎の園庭にも桜の木を植えました。まだまだ小さいですが、3月になるときれいな花を咲かせます。その小さな花を見つけたり、風に舞う花びらをつめる子どもたちの感性に驚かされます。

また、散歩コースにぴったりの殿上山、花見山、高谷の山も花でいっぱいです。子どもたちは毎日のように散歩に出掛け、道端にある花との出会いを楽しんでいます。野花を摘んでは大事に持ち帰り、部屋に飾ったり、保護者に渡したりと優しい気持ちも育っていきます。

親子遠足やクラス交流で保護者と一緒に出掛けることもあります。姉妹園のさくらみなみ保育園と行き来し、地域と一緒にでかけることもいい経験です。「さくら保育園ってこんなにいいところだよ」と友だちと話しながらさくら保育園と渡利地域を大好きになっていきます。

また、子どもたちは保育士と一緒に花壇に花を植えたり、ちゅうりっぷの球根を植えたりしています。これからは保護者にも呼び掛け、年間を通した活動にしていきたいと考えています。



親子遠足で花見山を散策



子どもと一緒に散策しました。「すぐ近くに住んでるけど、こないところがあったんですね」と参加した保護者からそんな声がありました。



プランターに花の苗を植える



保育者と一緒に花の苗を植えます。花にあまり関心がなかった子どもたちも興味を示し、お手伝いします。これからの花の成長が楽しみです。



太鼓・民舞・わらべうた



さくら保育園の保育方針のひとつに太鼓・民舞・わらべうたがあげられています。それは雪が解け、野山一面に花が咲き、春を迎えた喜びや野菜やくだものなどの作物の収穫雨ごいの為に地域で受け継がれてきたものです。運動会や秋まつりなどで保護者や地域の方に荒馬踊りを披露しています。太鼓のリズムに乗りながら自然を五感で感じるさくら保育園の保育を実感してもらっています。

散歩中にわらべうたを口ずさんだり、行事の中で地域や保護者の方に民舞や太鼓を披露することは、普段の保育活動の中で、生活に根差した取り組みになっています。

みて、触れた花を描く、表現する

散歩先の花見山で摘んできたコスモス。大事に持ち帰り、花瓶に入れて飾って楽しんだ後はクレヨンと絵の具で花を表現しました。（年長児）

2月の作品展示会でいつも散歩に出かけている花見山をちぎり絵、折り紙などを使い、はさみやのりを駆使して表現しました。（4歳児）



②事業名「姉妹園との交流を通して」

- (目的) 姉妹園と一緒に散歩に出かけ、それぞれの身近な自然・花に触れ、それぞれの地域の良さを知り、人も他の生き物も自然と繋がっていることを知る。
- (内容)
- ・地域性を生かした散歩コースの体験を通して、散歩の中で花を探したり、調べることによって興味関心を持ち、地域を好きになってもらう。
 - ・地域性を生かした散歩コースの体験を通して、子どもたちの運動能力の向上をすすめる。
 - ・姉妹園と自然と繋がった日本の伝統文化（田植え・収穫を祈る荒馬踊りや和太鼓）にふれ情操的にも豊かに育ちあえるようにする。



姉妹園のさくらみなみ保育園と交流しています。互いの園を訪問し、一緒に散歩に出かけ、いいところ自慢をします。その経験が地元をより好きになるきっかけとなっています。

さくらみなみ保育園前の田んぼを案内してもらいました。



年長児がお互いの園の散歩コースを歩きます。「ここにはザリガニがいるんだよ!」「いっしょにお花つもうね」など、それぞれの園の自慢をします。

さくら保育園の殿上山を案内しました。
「さくらのはな、きれいでしょ!ぶらんこもあるよ!」



保護者と共同の取り組みを通じて



子どもを真ん中において、保育園と保護者が対等な立場で意見を出し合い、よりよい保育・子育てができるようにと開園して2年後に**さくら保育園父母と職員の会**ができました。毎月一回クラスごとに懇談会を開き、子育てについてみんなで語り合い、保護者同士が繋がることで子育ての不安も和らぎます。（夏まつり、運動会は保護者に裏方の仕事も担ってもらいます）0歳からの子育てという大変な時期を共に過ごすことでつながりがより強くなっていきます。

また、**おやじの会**という任意の組織もあります。保育園のために、子どものためにと、園庭整備やエアコン清掃、民舞荒馬制作、雪かきなどに力を貸してくれます。そのお父さんたちの活躍を子どもたちはあこがれのまなざしで見えています。お父さん同士のつながりを通じ、より積極的に子育てに関わるようになったお父さんたちもたくさんいます。

この2つの組織はさくら保育園になくてはならないものです。

2011年3月の東日本大震災と原発事故は、福島市内でも放射線量が高かった渡利地域に深い傷跡を残しましたが、保育の進め方を考える上で、それまで培ってきた地域・保護者とのつながりが大きな力になりました。これからも共に手をつなぎ、子どもたちの未来と働く保護者の皆さんの力になれるよう保育を進めたいと考えています。